

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
420001	X-13/31-B-1-420001	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
情報産業	西山 茂			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	選択	1年
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	選択	1年
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	選択	1年
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	1年		

授業目的

現代社会はコンピュータと電子通信（ネットワーク、特にインターネット）の複合した技術（ICT）によって支えられている。ICTはこれを供給する側（ICT供給産業）の存在は不可欠であるが、これを利用・活用する側（ICT活用産業）の拡大も重要である。本授業では、この二つを併せて「情報産業」と位置付け、それぞれの現状、市場構造、トレンド、最新情報を学ぶ。更に「情報産業」のインフラとなる標準化、情報産業政策、関連法制度、情報産業従事者の働き方などの動向と課題についても学ぶ。  
 本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。  
 <情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。>  
 <仕事の仕組みを系統的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。>

各回の授業内容

<b>第1回</b> 【授】 イントロダクションー 情報産業の位置付けとデジタル社会の意味 【前・後】 以下の参考文献などを用いて事前に2時間予習を行い、授業後教科書及び配布資料に基づいて復習2時間行う。	<b>第9回</b> 【授】 情報産業基盤(1)ー 政策・法令と標準化 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第2回</b> 【授】 ICT供給産業(1)ー コンピュータ産業 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第10回</b> 【授】 情報産業基盤(2)ー 知的財産権 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第3回</b> 【授】 ICT供給産業(2)ー 電子ネットワーク産業 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第11回</b> 【授】 情報産業基盤(3)ー 情報セキュリティと個人情報保護 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第4回</b> 【授】 ICT供給産業(3)ー 情報サービス産業 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第12回</b> 【授】 [12]情報産業基盤(4)ー 情報産業における人材と働き方 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第5回</b> 【授】 ICT活用産業(1)ー デジタルコンテンツビジネス 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第13回</b> 【授】 情報産業及びデジタルエコノミーの将来展望 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第6回</b> 【授】 ICT活用産業(2)ー 商取引(eコマース) 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第14回</b> 【授】 情報産業最新情報アップデート (ICT及び利用法の最新動向など) 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第7回</b> 【授】 ICT活用産業(3)ー 教育(eラーニング)、Web関連産業 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第15回</b> 【授】 まとめー ICTがもたらす仕事、家庭生活の変化(過去、未来)、ICTの社会へのインパクト 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)
<b>第8回</b> 【授】 ICT活用産業(4)ー 行政(e-Gov)その他の産業分野 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく。復習(予習3時間、復習1時間)	<b>第16回</b> 【授】 定期試験 【前・後】 教科書及び配布資料に基づく復習(復習4時間)

成績評価方法

概ね次のように評価する。  
 ・期末テスト: 60% (理解度確認テストを1回以上提出していること)  
 ・理解度確認テスト (Quiz): 40% (基本的には単元ごとに実施する)  
 <フィードバック法>  
 ・理解度確認テストは授業の中で答え合わせを行う。  
 ・定期試験については、ポータル授業連絡機能を用いて、試験結果の講評を全履修生に伝える。

教科書・参考書

初回到教科書を配布する(コピーの場合もある)。  
 単元ごとに、事前に講義資料をポータルに登録する。各自ポータルからダウンロードして利用する。  
 参考文献:  
 ・政府・業界系白書: 情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、デジタルコンテンツ白書等  
 ・民間の白書等: インターネット白書; インターネットビジネス白書; 情報通信ハンドブック等  
 ・OECDレポート: OECD information Technology Outlook 2010, 2012 (出版されれば)  
 ・米国商務省レポート: Digital Economy 2003, <http://www.esa.doc.gov/Reports/digital-economy-2003>  
 ・林 紘一郎著、電子情報通信産業、電子情報通信学会、2002

受講に当たっての留意事項

・理解度確認テストの提出回数が0回である場合は期末試験の受験資格を与えない。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○	担当教員は、企業の研究開発部門および営業部門、自治体の情報企画部門で実務経験がある。	×

学習到達目標

- ICT供給産業(コンピュータ、ネットワーク、情報サービスなど)の動向と課題を理解し、説明できる。(期末テスト/理解度確認テスト: 30%/10%; 以下同様)
- ICT活用産業(商取引、教育、行政など)の動向と課題を理解し、説明できる。(10%/10%)
- 情報産業基盤(法制度、標準化、知的財産権、情報セキュリティ、個人情報保護、情報産業人材の働き方と人材育成)に関する知識を理解し、説明できる。(10%/10%)
- デジタルエコノミーの進展と情報産業政策の動向およびICTの潮流を理解し、説明できる。(10%/10%)

JABEE

関連する学習・教育到達目標: G

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習